

会員・地域から“頼りにされる”協会へ



会長 鬼澤 邦夫

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年の日本経済を振り返りますと、大胆な金融政策、財政政策が市場を刺激し、輸出の回復、設備投資の持ち直し、個人消費の増加など、デフレからの脱却と経済成長の道筋が見つつあるように思われます。

本県経済におきましては、震災で毀損した道路、港湾、建物などの社会インフラの復旧がほぼ完遂し、工場立地件数、面積ともに全国トップクラスの水準まで回復し、着実に本格的な復興、成長に向けて歩みを進めております。一方で、原発事故に伴う風評被害から脱していない地域、産業も残されており、全面的な復興に向けては、地域社会全体としての取り組みが必要と考えております。

このような経済社会情勢の中で、当協会としましては、復興、成長の一翼を担うべく、経営者間の交流を通じた相互研鑽、相互啓発に積極的

に取り組んで参りました。昨年は特に、経営者間の交流の輪を大きくし交流のより一層の充実を図るため、会員増強に力を入れ、100社を超える企業様に新たにご加入頂きました。誠にありがとうございました。既存の事業活動の魅力を更に高め、そして、新たなニーズを捉え、具体化し、会員のみなさまのご期待に応え、ひいては地域社会の発展に寄与して参りたいと考えております。

本年4月からは、「第7次中期運営要綱」（平成26年度から28年度までの3カ年の運営指針）がスタート致します。要綱策定にあたり、会員のみなさまから頂戴しましたご意見、ご要望を着実に実現していくことで、「会員・地域から“頼りにされる”茨城経協へと進化する」ことを目指します。具体的には、①事業経営に有用な情報の収集と情報発信力の強化、②会員交流の質的・量的な充実、③地域社会への貢献活動の強化、等を柱として、企業経営の発展と豊かな地域社会づくりに寄与

して参りたいと考えております。

「頼りにされる」経営者協会へ進化するためにも、会員のみなさまの積極的な協会活動への参画を何卒お願い申し上げます。協会運営に関しましてご意見をこれまで以上にお寄せ頂き、その実現に全力を尽くすことをお約束し、年頭の挨拶といたします。

皆さま方の一層のご健勝、ご発展をお祈りいたします。



(株)常陽銀行 代表取締役会長

「人が輝く元気で住みよいいばらき」 づくりに向けて

茨城県知事 橋本 昌



あけましておめでとうございます。

一般社団法人茨城県経営者協会の皆様にはすがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

経営者協会におかれましては、日頃から労使関係の健全化や企業経営の安定化などに寄与されるとともに、本県の産業経済の興隆にご尽力いただき深く敬意を表します。

昨年、東日本大震災や原発事故などの影響が依然として残り、皆様方には引き続きご苦勞の多い一年であったことと存じます。

一方、我が国の景気は緩やかに回復しつつあり、本県におきましても、昨年上半期の工場立地件数が全国第一位となる、あるいは、日野自動車古河工場の本格稼働の前倒しが決まるなど、明るい兆しも見え始めております。

本年は、震災からの復興をしっかりと進め、本県をさらに発展させていくための重要な年であります。県政を取り巻く環境は依然として厳しいものがありますが、引き続き、行財政改革に取り組みながら、企業誘致などにより地域の活力を生み出す「産業大県」づくり、その成

果を福祉や医療・教育・環境などに生かす「生活大県」づくりを進め、「人が輝く元気で住みよいいばらき」の実現に全力で取り組んでまいります。

とりわけ、将来を担う「人づくり」は「いばらきづくり」の基本となる重要な課題であります。このため、本県独自の少人数教育の一層の推進をはじめ、道徳教育・郷土教育の充実、いじめ対策などを通じ、子どもたちの確かな学力と豊かな心を育みますとともに、最先端の科学技術の担い手や国際社会で活躍できる人材の育成のため、理数教育や国際理解教育の充実に取り組むなど、「人が輝くいばらき」づくりを推進してまいります。

また、本年7月には全国高等学校総合文化祭が開催されますので、本県の魅力を全国にアピールしてまいります。

一方で、人口減少が急速に進み、地域間競争が厳しさを増す中で、地域の活力を維持し発展していくためには、働く場の確保や交流人口の拡大が極めて重要であります。引き続き、広域交通ネットワークの整備などにより、企業が世界的な競争に勝ち抜くことのできる環境づくりを進めますとともに、つくば国

際戦略総合特区における先導的プロジェクトの推進等による最先端科学技術の拠点づくり、中小企業の振興、儲かる農業の実現、観光の振興などにも一層力を入れ、「元氣ないばらき」づくりに取り組んでまいります。

さらに、本格的な少子高齢社会を迎え、医療や福祉の充実が喫緊の課題となっております。今後とも、医師の確保や医療人材の養成、救急医療体制の整備など、地域医療の充実に努めてまいります。また、昨年、成婚数が1,100組を超えた出会いサポートセンターによる結婚支援をはじめ、子育て支援や高齢者の健康・生きがいづくり、障害者の自立支援などに取り組みますとともに、災害に強い県土づくりや霞ヶ浦の水質浄化など、安全・安心・快適な生活環境の実現に力を注ぎ、「住みよいいばらき」づくりを進めてまいりますので、経営者協会の皆様におかれましても、なお、一層のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたしまして新年のあいさつといたします。本年もよろしく願いいたします。



経済の好循環を 実現する

一般社団法人 日本経済団体連合会
会長 米倉 弘昌

安倍内閣による一連の経済政策が功を奏し、底堅い消費など、内需に牽引されるかたちでわが国経済は回復を続けている。また、復興特別法人税の前倒し廃止の決定など、企業の活性化に資する施策も講じられようとしている。2014年は、まさにデフレ脱却と本格的な経済再生の好機であり、何ととしても、持続的な経済成長の礎を確固たるものとし、世界から期待され信頼される、豊かで活力に溢れる新たな日本の創生に向けて踏み出したい。

このために何よりも重要なのは、経済界の取り組みである。実際に経済を成長させ、国民に豊かさをもたらすことができるのは、他ならぬ民間企業である。われわれこそが、成長戦略の主演であるとの強い気概を持って、新たな成長の機会の創出に全力で取り組み、日本経済の再生をリードしていかねばならない。

われわれは、「行動する経団連」として、民主導の力強い持続的な経済成長の実現に邁進する。政策提言を強化するとともに、「未来都市モデルプロジェクト」を通じてイノベーションを促進し、グローバル人材の育成や女性の活躍支援に向けた活動を積極的に展開する。そして、企業業績の改善が、投資の拡大と雇用の創出、そして賃金の引き上げにつながる「経済の好循環」をつくり出すべく努力していく決意である。

政府・与党においては、震災復興をさらに加速するとともに、企業と個人が持てる力を最大限発揮できるよう、大胆な規制・制度改革、エネルギー供給の安定と経済性の確保、TPP、日EUをはじめとする経済連携の実現、多様な人材が活躍できる環境の整備、成長に資する税・財政・社会保障改革、道州制の推進など、必要な政策を、力強く、スピーディーに実行していただきたい。



「人間・企業ともに 万事塞翁が馬」

副会長 小濱 裕正

謹賀新年 皆様のご繁栄をお祈り申し上げます。

安倍政権の経済再生シナリオが着々と実行されてきた一年。功罪相半ばする政策に戸惑いを感じながらも更なる期待感を強める経済人。一方、消費増税や各種生活コスト負担増等の不安感を強める生活者。本年の成否によっては「陽はまた昇る」のか、それとも「陽はまた沈む」のか。いずれにしても「幸は不幸を呼び、不幸は幸を招く」という歴史の教を頭の片隅に認識しながら、長年の静態的な環境下における経営政策から動態的な環境下における経営課題を明確に具体的施策として解決しなければならぬ一年になる。午年に因んでいえば、決して名馬・駿馬のしり馬に乗らず驚馬十駕の精神を持ち、また一喜一憂せず人間・企業ともに「万事塞翁が馬」である。

次に、政権の政策とは関係なく、社会が確実にシフトしていることも認識しておかなければならない。単に人口動態の変化のみならず、生活者自身の価値観が想定以上のスピードで多様化変質化している。今までの「お客様は神様である」という短絡的消費者志向では対処できなく、新しいビジネスモデルを創出しなければならない。小売流通業に携わる弊社の例を示せば、従来型のモノ(商品)中心の評価からマインド(知性)やハート(感情)とスピリット(魂)を現場で発揮できる人間的な存在、即ち「現場力」に加えて「人間力」の重要性である。幸いにも、50年以上も続けてきたチェーンストアの固定観念的組織運営を抜本的に創造的破壊すべく昨年10店舗でその実験を開始したところ期待以上の成果がえられはじめた。今年は50店舗以上に拡大する予定である。

結びに、あの佐藤真海さんのメッセージを。「新たな夢と笑顔を育む力・希望をもたらす力・人びとを結びつける力・をすべての人や社会と分かち合いましょう」。 共栄

(株)カスミ 代表取締役会長)

アメション（アメリカで用足しをして 来ること）のすすめ



副会長 佐藤 修二

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

最近、あちこちで「グローバルゼーション」という言葉を耳にします。今日は、「グローバルゼーション」の入門編としての「アメションのすすめ」を申し上げます。「品のない表現」で申し訳ございません。

1. アメションとは：

「特段の成果を求めることなく、兎に角『アメリカに行つて来ること』」を言います。私が小学生の時に父からこの言葉を教わりました。私の育った栃木県那須郡黒羽町は、美しい那須連峰と清き流れの那珂川に抱かれた田舎町です。自然には恵まれていましたが、文化（文明）度は高くない町でした。

ある時、この町のお金持の有力者が、何とアメリカ旅行をすることになりました。約10日間の旅行から帰つて来ると、連日のように報告会が開かれました。写真に写る全ての景色が黒羽では見られないものばかり。全ての写真の中央には、そのお金持の得意満面の笑顔が写っていました。街の大人の真似をして、「〇〇さんはアメリカに行ったから「偉い人」なんだね」と言う私に父が一言。「そうだな。「アメション」はして来たからな」。

2. 悪いアメション：（何でも「アメリカでは」、「イギリスでは」と言う学者・評論家）

学者や評論家の中に、何かと「アメリカでは」、「先日ヨーロッパ各国を廻つて来ました」と得意そうに言う人が多い。先進諸国の事例や考え方を只「紹介」しているだけで、本人の独創性や付加価値がないにも拘わらず、偉そうにしています。本当に日本人は「欧米に弱いな」と感じます。「横のものを縦」に移し変えているだけなのに。これが父の言った「（悪い意味の）アメション」なのでしょう。

3. 正しいアメション：（「Don't think, Feel!」(考えるんじゃない。(実際に触つて)(自分なりに)感じよ)

ブルース・リーの名画「燃えよドラゴン」の有名なシーンです。少林寺拳法の初心者（少年）に技を教え込むブルース・リー。少年に何度も自分に蹴りを入れさせて「どうだ！何か感じたか？」と聞きます。少年は「Let me think (えーと)」と何かを言おうと頭をかしげる。即座に、リーは少年の頭をひっぱたいて、あの名台詞「Don't think, Feel!」と言います。少年は全てを察し、微笑んで感謝で頭を下げます。そうです。これこそが「現地・現物・現認主義」にも通じる「正しいアメション」の教えです。

4. 当社のアメション：

当社には、1年間で最高の営業成績、実務の改善、システム

の構築等を達成したチームに対して「社長表彰・特別賞」を授与して、海外出張に出します。昨年のチームには、問答無用で「ニューヨーク行き」を命じました。英語の得意でないチームでしたので珍道中だったようですが、彼等は、ニューヨークでしか味わうことの出来ない様々な事柄に出会い、直に「触つて、感じて、胸を熱くして」清々しい表情で帰つて来ました。一皮も二皮も向けた将来当社を担う人材が誕生しました。

5. 最後に：現在、グローバルゼーションの進展に伴い、日本を含む世界のマーケットが激しく変化しています。元伊藤忠商事社長／米倉功氏の言われるように「現状維持 是即脱落」です。

そのためにも、「兎に角現地に行つて来い。何かを感じて来い！」と、どこへでも送り出してやるのが大切です。「可愛い子には旅をさせよ」。我が子にやれることは社員にもやらせられるのです。

アメリカでなくとも、日本国内、茨城県内どこにでも、「何かを自分で感じ取り、学び取るべき刺激と情報」が山ほど転がっています。私はこのアメション精神で、今年も社員教育（育成）を行つて参ります。

(株)日立ライフ 取締役社長)



ご安全に

副会長 木村 和弘

ご安全に。そして、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、「アベノミクスの三本の矢」や「東京オリンピックの誘致決定」により、経済の環境や人々の気持ちの持ち方が改善された一年でした。

今年は、この景気（景色と気持ち）の改善が、実体経済にもきちんと波及することを期待したいと思います。そのためにも、射られた三本の矢が的に向かって右や左からの強風にあおられることなく、速いスピードで力強く射抜いてほしいものです。

ところで皆さんは、冒頭の「ご安全に」という言葉をご存じでしょうか。わが社では、新年の挨拶も、出退勤の挨拶も、社内の会議もこの「ご安全に」で始まり、「ご安全に」で終わります。

この挨拶は、住友金属工業(株)（現在の新日鐵住金(株)）の技術者の方が、ドイツに留学中に、視察した鉱山で使われていた「ご無事で」という意味の挨拶に感銘を受け、帰国後「ご安全に」という挨拶として取り入れ、1953年に全国に広めたそうです。

「ご安全に」の言葉には、「安全は何物にも代えがたいものであり、全てに優先するのだ。常にこの気持ちを忘れずに仕事に取り組もう!」との決意を込めて、全員が使っています。

働く人の安全は職場管理の基本であり、経営の最優先事項です。安全に関するルールを守る、これが大原則です。生産の遅れは取り戻せますが、災害によるロスは取り返しがつきません。社内では、安全最優先に徹するよう口を酸っぱくして言っています。

幸いなことに、わが社は現在26年6ヶ月間無災害を継続しています。もちろん、将来にわたる安全が担保されているわけではありません。そのため、「ご安全に」に込められた決意を常に持ち、ルールを守り守らせる人づくりと、職場にある危険の芽を探し、解決策を考え、備えることを全員で、愚直に繰り返していきたいと思っています。そして、今年も無災害事業所を継続していきたいと思っています。「ご安全に！」

(日鉄住金鉱化(株) 代表取締役社長)



文化の違いを 乗り越える

副会長 高橋 日出男

新年明けましておめでとうございます。

昨年は年初、超円高から金融緩和・財政出動そして成長戦略の期待感から、円安株高へと転換し、優位な製品を武器にグローバル化した大手企業を中心に業績の回復が鮮明になってきた。しかし我々中小企業にはその波及効果はなく、円安のマイナス部分が出ていた。今年は期待したい。

今年12月、当社の海外子会社である上海協立に創業22年目で初めて総経理として社員を出向させた。中国社会では外国企業が出資した合弁・独資会社の総経理を中国人にするとナンバー2の人材を育てるところか辞めさせてしまうことが多い。管理者層でも同じである。ナンバー2が実力をつけてくると自分の地位を脅かすと考える。いろいろな知識・技術を教え込んでいくと、自分を売込んで少しでも給与の高い会社に移り、転職を繰り返していくことも要因の一つと思われる。

15年程前に中国人経営者と懇談会の機会を得た。自己紹介で私は油圧機器部品製造一筋に40年生産活動をしている会社であると話したところ、なぜそんなに長く同じ仕事をしているのかと中国人経営者から質問があった。私は加工技術を極めながら、改善を進め、現場の力を高めていくからだと答えたが、理解して貰えず、逆質問をした。あなたは今の仕事をどのようにしようとしているのか。すると彼は企業価値が一番高い時に会社を売り、その資金で不動産業を始めると答えた。当時も今も中国の錬金術はただ同然の土地を特別開発区に指定し、市・地方政府は成功した経営者に共同で商業区・工業開発区の造成を行い、利用権を販売する。日本の製造業経営者とは価値観がまるで違うと痛感した。日本人と中国人「似て非なるもの」である。我々は今、文化の違いを乗り越えることが問われている。

(株)協立製作所 代表取締役社長)



ダイナミズムと スピードを意識して

専務理事 清水 賢一

新年明けましておめでとうございます。会員のみなさまにおかれましては、健やかに新年を迎えられたことと存じます。

当協会は、昨年107社の新入会員をお迎えすることができました。本年3月の平成25年度末までには会員総数800社という大台達成も実現できそうです。これも偏に、役員をはじめ委員会や支部の委員、幹事の方々そして多くの会員の皆様のご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、わが国経済は、“地方ではアベノミクス効果は未だ実感できない”との声が少なからずあるものの、わが国全体としては確実に回復しつつあるように思われます。消費税率引き上げ後の景気の下振れが懸念されるころではありますが、その備えとして、昨年末、競争力強化策をはじめ5.5兆円規模の「好循環実現のための経済対策」が閣議決定されました。この対策が奏功し今年がデフレ脱却元年となることを心から願うものですが、当協会は、こうした行政の施策にただ頼るのではなく、将来を見据え自らもリスクを取り果敢にチャレンジしようとする企業を積極的に支援する事業を展開して参りたいと考えております。

今年“午(馬)年”。馬はダイナミックでスピード感があります。また、「物事が“うま”くいく」「幸運が駆け込んでくる」などのように、縁起のいい動物といわれています。

その言い伝えにあやかり、“ダイナミズム”と“スピード”を意識しながら、会員企業の皆様の成長、発展とより良い地域社会の実現に貢献できるよう役職員一同尽力して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

茨城産業会議

橋本昌知事を囲む懇談会開く

「26年度県政への提言・要望」を提出

茨城産業会議（鬼澤邦夫議長）は、12月25日（水）、水戸市・水戸プラザホテルで、第2回拡大総会を開催し、「平成26年度県政要望」（案）を原案通り承認した。

この後、「知事を囲む懇談会」が開かれ、鬼澤議長より橋本昌知事に「県政要望」が手渡された。

同懇談会には、茨城県から、橋本昌知事、野口通理事兼政策審議監、小松原仁企画部長、泉幸一生活環境部長、横山仁一商工労働部長、立藏義明土木部長、土井幹雄保健福祉部長、野澤勝産業政策課長が出席した。

はじめに、鬼澤議長が「アベノミクス効果により製造業をはじめ景況感も改善されつつある。しかしながら、円安による資材高騰等、中小企業を取り巻く環境は依然厳しい。デフレ脱却と持続的な経済成長が今後の鍵となってくる。先程、知事からも求人要請があったが、雇用問題は経営者の責務であり、茨城産業会議も雇用問題への対応、経済界の活性化に最大限努めていきたい。」と挨拶。

続いて、橋本知事が挨拶に立ち、「中小企業の経営状況は依然として厳しい状況であると認識している。また、東日本大震災の影響も色濃く残る。そのような中で、上半期の工業立地件数は全国1位、農業生産は第2位を維持することが出来た。人口減少の問題など課題は多いが、今後も活気ある産業界、茨城県となるような環境作りをしていきたい。」と挨拶した。

続いて、県中小企業団体中央会の横田副会長、県商工会議所連合会の和田会長、県商工会連合会の外山会長、茨城県経営者協会の高橋副会長より3つの重点要望と緊急要望を踏まえた挨拶が述べられた。その後、各要望項目の現況と今後の対応について各部長より説明があった。その後、活発な意見交換が行われた。

<知事を囲む懇談会出席者>

当協会会長（茨城産業会議議長）
茨城県商工会議所連合会会長
茨城県商工会連合会会長

敬称略
鬼澤 邦夫
和田祐之介
外山 崇行

(一財)常陽地域研究センター理事長	増山 弘
当協会副会長	佐藤 修二
当協会副会長	高橋日出男
茨城県商工会議所連合会副会長	中川喜久治
茨城県商工会議所連合会副会長	鈴木誉志男
茨城県商工会連合会副会長	小川 一成
茨城県中小企業団体中央会副会長	横田 修平
茨城県中小企業団体中央会副会長	阿部 真也
筑波大学名誉教授	佐藤 守弘
茨城大学人文学部教授	内田 聡
当協会専務理事	清水 賢一
茨城県商工会議所連合会専務理事	中里 修三
茨城県商工会連合会専務理事	畑岡 宏茂
茨城県中小企業団体中央会専務理事	千葉 実
(一財)常陽地域研究センター理事事務局長	出井 滋信
(社)茨城県産業会館専務理事	植田 信行

<平成26年度茨城県政に関する提言・要望> ～地域経済社会の持続的繁栄に向けての提言・要望～

提言・要望項目

- 1 地域経済社会を支える中小企業の振興と賑わいのある「まちづくり」に向けて
 - (1)中小企業の競争力強化と販路拡大等の支援
〔重点要望事項①〕
 - (2)中小企業向け金融支援ならびに税制支援策の充実
 - (3)次世代をリードする産業の育成と拠点づくり
 - (4)官公需における地元企業の受注機会拡大と入札制度の改善
 - (5)中心市街地の整備
 - (6)県北地域活性化の推進



- 2 本格的な人口減少社会に対応した少子高齢化対策ならびに雇用対策の充実に向けて
 - (1)結婚・少子化対策ならびに従業員の子育て支援施策の推進〔重点要望事項②〕
 - (2)雇用対策の充実・強化
 - (3)社会保障制度等の見直し
 - (4)勤労者が安心して働ける医療・介護体制の整備
- 3 地域社会の安全・安心の確保に向けて
 - (1)原子力発電所事故の対策〔重点要望事項③〕
 - (2)防犯体制の見直しと広域防災体制の整備
 - (3)公共施設等の耐震化整備の促進
- 4 交通基盤の整備と地域の活性化に向けて
 - (1)つくばエクスプレス・JR常磐線の東京駅乗入れ〔緊急要望事項〕
 - (2)茨城空港の利活用促進と高速道路網の早期整備の推進
 - (3)東京オリンピック、茨城国体開催を契機とした地域活性化の促進
- 5 地域の復興・発展を支える基盤づくりに向けて
- 6 企業の環境対策の強化に向けて
- 7 迅速・効率的な行政サービスの提供と規制の緩和に向けて

県内5金融機関との連携による 茨城ものづくり企業交流会2014

**展
示
会**
製品・技術

金融機関一押しの
ものづくり中小企業
約「100社」が展示

入場
無料

日時 平成26年**2月21日**(金)
13:00~16:30 (時間内の入退場自由)

会場 **水戸プラザホテル**
2階「ボールルーム」

【共催】茨城県信用組合、常陽銀行、筑波銀行、水戸信用金庫、結城信用金庫
(50音順)

政策委員会

平成26年度事業について意見交換

12月13日(金)、つくば市・常陽つくばビル役員会議室において第3回政策委員会が開催された。

鬼澤邦夫会長の挨拶の後、高橋日出男副会長(株協立製作所代表取締役社長)が議長となり議事を進めた。

会議では、清水専務理事より会務報告があった。次に第7次中期運営要綱案、次年度以降の各関係活動の新しい取組みについての事務局説明後、意見交換

が行われた。

続いて各支部長より地区の状況、各委員長より委員会活動の状況、各委員の業界・会社の状況等が報告され、意見交換を行った。

なお、大学への寄付講座については、前期実施大学の茨城キリスト教大学と常磐大学より平成26年

度の継続実施要請があった旨が事務局から報告があり協議により実施することとなった。



会議風景

経営教育委員会

第12期マネジメントマスターコースが終了

経営教育委員会(委員長 植木誠氏(株筑波銀行 代表取締役副頭取))は12月3日(火)、茨城県産業会館研修室において、第12期マネジメントマスターコース第4講(最終講)を開講し、全4回コースのすべてを終了した。

最終講では、NPO法人日本ファシリテーション協会の徳田太郎氏のリードの元、11月の伊那食品工業の現地視察で得た学びを自社に活かすワークショップを開催した。

前半はワールドカフェ方式で、「伊那食品工業に“違い”があるとしたら、それはどこからきているか?」や「学びを自社に活かすに当たってカギになりそうな“キーワード”は?」といった問いかけについて、分かち合う、深めるための話し合いをメンバーを変えながら行った。

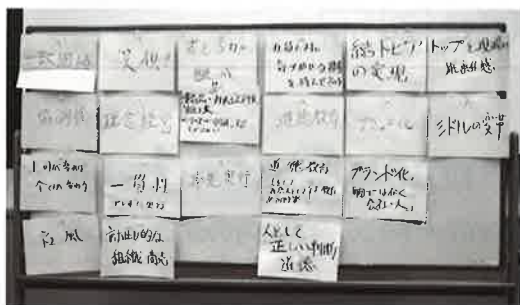
後半は、オープンスペース方式で、カギになる“キーワード”が近い方で話し合い、自社で行いたい「私の最初の一步」を2人1組の対話で探究、発見していく事によりアイデアが刺激され、考えが深まるワークショップが進められた。

アンケートでは、



私の最初の一步を説明、宣言

「思ったこと、感じたことを色々な人と対話することで、深く感じることができ、整理ができた」「ワークショップ形式を取った事で、沢山の意見を聞いた。伊那食品の見るべき所を多く聞いた」など、大変高い評価をいただいた。次年度の希望では、「今回の伊那食品工業のような優れた企業に学び、現地視察&自社に活かすコース」を求める声が多かった。



カギになる“キーワード”

経営教育委員会

教育問題懇談会を開催/茨城大学を訪問

同委員会では、11月26日(火)、茨城大学において教育問題懇談会を開催した。

初めに、影山俊男理事から歓迎の挨拶があった後、学術企画

部の齋藤勝男社会連携課長より昭和24年に発足、5つの学部を持つ茨城大学の概要を説明いただいた。

キャンパス内の見学では、教

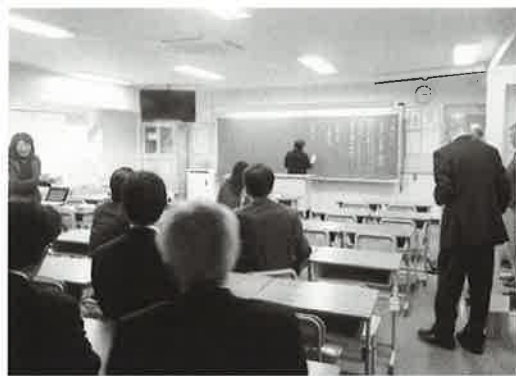
育学部附属教育実践センターを訪問、教員をめざす学生が実習前に実際の小学校の教室を同じ設備を持つ施設で授業の進め方をシュミレーションする様子を

見学、また、就職支援センターでは、キャリアコンセラーが常駐し様々な就職へのフォローが行われる状況について説明を受けた。

続いて、経営者協会からは、「産業界で望む人材像」について、また、茨城大学からは、「学生就職支援センターの就職支援の取り組みと課題」「茨城大学の社会・地域との取り組み」と

題し事例発表が行われた。

最後に、①インターンシップの状況、②大学改革実行プランの目指す方向、③地域参画プロジェクトの位置付け、④大学本来の学術的な分野と就職活動の両立などについて活発な意見が交わされた。



実際の教室と同じ設備で実習

環境委員会

環境経営講演会を開催

環境委員会(委員長 坂井雅紀氏 キヤノンエコロジーインダストリー(株)代表取締役社長)は12月19日(木)、茨城県産業会館大会議室にて環境経営講演会を開催。「2035年のエネルギーを予測する～今後のエネルギー動向を企業はどう捉えるべきか～」と題し、講師には、独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長の安井至氏をお招きした。参加者数は32社39名。

安井氏は「震災以降、国民的



合意ができていないなかで、近い将来に主流となるであろうエネルギーや、その構成比率を推測するのは困難だが、遠い未来である2100年の地球環境の状態や使用可能なエネルギー像を描いた上で、バックキャストを行いながら2035年の姿をイメージする方法を進めていきたい。気候変動・資源・食料問題など、我々が抱えている課題を将来的に解決へ導くためには、現状への正しい理解と各国による合意

が必要となる」と語られ、自然エネルギーの可能性や、現在主流となっている石炭・石油・原子力エネルギーの今後の動向について見

解を述べられた。

また講演後半には参加者をグループに分け、講演内容で疑問に感じた点をグループ内で共有し、その後、講師との質疑によって理解を深めていく手法をとりながら進められた。

参加者からのアンケートでは「通常の業務で、工場内の省エネ推進を担当しているが、世界的にみた現在の資源動向や将来的に主流となるエネルギーなど、グローバルな視点で考えることがなかったので視野が広がった」、「通常の講演会と異なり、聴きっぱなしではなく参加者間での課題共有や、グループ毎に質問を取り纏め、安井先生への質問⇔回答を繰り返すことによって、より理解を深めることができた」といった感想が寄せられた。

環境委員会

環境実務セミナーを開催

環境委員会(委員長 坂井雅紀氏 キヤノンエコロジーインダストリー(株)代表取締役社長)は11月29日(金)、茨城県産業会館大会議室にて「最近の産業廃棄物不適正事例から学ぶ廃棄物処理法実務のポイント～排出事業者の責務から小型家電リサイクル法など環境法令の最新動向を学ぶ」と題して、環境実務セミ

ナーを開催。講師には、(株)リテム環境リスクチーフコンサルタントの坂本裕尚氏をお招きした。参加者数は64社74名。

坂本氏は「不法投棄をはじめとする産業廃棄物の不適正処理は、大きな社会問題を引き起こしており、昨今では特に業務委託する“排出事業者”の責務が強く問われています。失墜した



信用を取り戻すには大変な困難を伴うため、排出事業者はリスクマネジメントの一環として、法に対する正しい知識を持ち、適正な処理を推進しなければなりません」と語り、実際に排出事業者が責任を問われた事例や、気付かずに法令違反してい

たケースなどを紹介しながら、実務上留意すべきポイントについて、数多くご紹介いただいた。

参加者からのアンケートでは「今回のセミナーで、排出事業者としてチェックしなくてはならない点が多々あることを改めて知ることができた。また、処

理事業者とは日頃より信頼関係を構築しておくこと、定期的に現場を訪れ自分の目で確認することが重要だという点は、身にしみて感じた。今後実行していきたい」といった感想が寄せられた。

労働企画委員会

県内4大学において学内企業説明会を開催

労働企画委員会（委員長 館岡司氏（株）日立製作所電力システム社日立事業所副所長）は、県内4大学において現4年生向け（2014年3月卒業予定者）の学内



企業説明会を開催した。各大学における開催状況は、11月27日（水）常磐大学：参加企業12社、参加学生61名、11月29日（金）茨城キリスト教大学：参加企業10社、参加学生32名、12月4日（水）茨城大学・水戸キャンパス：参加企業11社、参加学生31名、12月5日（木）茨城大学・工学部：参加企業8社、参加学生10名、12月16日（月）流通経済大学：参加企業14社、参加学生25名であった。

各大学とも3月の卒業を控えて、就職意欲の高い学生が多数参加した企業説明会となった。参加した採用担当者の感想では「全体的にやや元気のない学生が多かった。これまでの学生生活は変えられないのだから、ありのままの自分をもっと自信をもって、自分を売り込んで欲しいと思う。大学時代に、学業以外の経験も積んで欲しい」といった声も聞かれた。

次年度も会員企業の採用活動の支援を行う予定である。

労働企画委員会一日立地区支部・常陸・那珂地区支部・水戸地区支部

労働行政懇談会を開催



労働企画委員会（委員長 館岡司氏（株）日立製作所電力システム社日立事業所副所長）、日立地区支部（支部長 土屋静治氏 日立電鉄交通サービス（株）取締役社長）、常陸・那珂地区支部（支部長 柳生修氏 コロナ電気（株）代表取締役社長）、水戸地区支部人事労務担当者会議（代表幹事 川上康郎氏 茨城交通（株）執行役員総務部長）は、12月16日（月）、ホテルクリスタルパレスにて、委員会&支部合同による

労働行政懇談会を開催。41社49名が参加した。

当懇談会は茨城労働局より講師を招き、労働行政施策に関するトレンドを解説いただくもので、

本年度は下記4テーマで開催。冒頭、主催者を代表して水戸地区支部人事労務担当者会議の川上代表幹事より挨拶をいただいた後、懇談が進められた。

①職場のパワーハラスメントの予防解決について

（講師：茨城労働局労働基準部監督課 監督課長 藤中基之氏）

（講師：茨城労働局総務部企画室 労働紛争調整官 矢島進介氏）

②女性の活躍推進について

（講師：茨城労働局雇用均等室室長 布川裕子氏）

③第12次労働災害防止推進計画と最近の労働災害発生状況について

（講師：茨城労働局労働基準部健康安全課 課長 青山努氏）

④茨城県内の高齢者・障害者雇用状況について

（講師：茨城労働局職業安定部職業対策課高齢者対策担当官 高林宏治氏）

（講師：茨城労働局職業安定部職業対策課地方障害者雇用担当官 高安祐一氏）

※上記テーマに関する配布資料をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

常陸・那珂地区支部

役員幹事会を開く

常陸・那珂地区支部（支部長 柳生修氏 コロナ電気㈱代表取締役社長）は、12月18日(水)、日立工機さくらクラブにて本年度2回目となる支部役員幹事会を開催し、柳生支部長、三代正夫



副支部長（センター電機㈱代表取締役）出席のもと、上期事業の報告と下期事業の具体化について協議された。

今泉良幹事長（㈱日立製作所都市開発システム社総務部長）の進行により、年明けに予定されている行政懇談会および人事労務セミナーの内容について検討し、下記内容で計画を進めていくことが承認された。

（人事労務セミナー）
 テーマ：ロー・パフォーマンス組織不適合社員対応の法律実務
 講師：丸尾法律事務所弁護士 丸尾拓養氏
 日時：平成26年3月17日(月) 14:00～17:00
 場所：茨城県産業会館

（行政懇談会）
 テーマ：東海村が取り組むまちづくりと今後の展望（仮）
 講師：東海村村長 山田修氏
 日時：平成26年3月24日(月)
 場所：ホテルクリスタルパレス

水戸地区支部

第3回役員・幹事会を開催

水戸地区支部（支部長 西村寛氏 ㈱水戸京成百貨店代表取締役社長）は、12月6日(金)、経協会議室において、平成25年度第3回役員・幹事会を開催した。本会では、前回役員幹事会以降の実施事業の振り返りと今後の事業の具体化、また、第7次中期運営要綱について、それぞれ協議を行った。

実施事業の振り返りでは、「支部総会」「合同視察会」「チャリティコンペ」など各事業について、事務局から参加者数や内容、

課題等が報告され、出席した役員・幹事からは、感想や意見が述べられた。

今後の事業の具体化では、3月に開催予定の「支部単独セミナー」など各事業について協議が行われ、㈱茨城放送の北島重司社長から、「私が見てきた報道の裏側」について、第2部として「でんさいネット」を学ぶ内容で開催する事で承認された。

続いて平成26年度からの3カ年の中期計画である第7次中期運営要綱の原案が清水専務理事から説明があり、役員幹事に意見や追加が求められた後、忘年会で懇親を深め散会した。



土浦・石岡・つくば地区支部

人事労務研究会・日本ナショナル製罐における「6S」の取り組みを学ぶ

土浦・石岡・つくば地区支部（支部長 徳川義和氏 日立建機㈱執行役常務生産・調達本部長）の人事労務研究会（代表世話人 勝山勲氏 栗田アルミ工業㈱人材育成チーフマネージャー）は11月26日(火)、日本ナショナル製罐㈱を訪問し、同社における「6S」の取り組みについて学んだ。

同社は石岡市に立地し、アルミニウム飲料缶の製造、販売を行い、1分間に2,300缶以上を製造する日本最速のアルミ缶生産を含む4つのラインで、高い生産効率と高品質・ローコストを実現している。「6S」とは、「作法・



「躰・整理・整頓・清掃・清潔」のことであり、この中の「作法」とは、「思いやり」の気持ちのこと。

徹底して「6S」に取り組み、清潔に磨き上げられた製造ラインを見学した後、参加者からは、

「製造ラインのキレイさに感動した。キレイさを持続するためのポイントを教えて頂きたい」との質問がなされ、同社担当者からは、「何度も言い続けたのは、食品容器を製造する当社にとって『床』は、『食卓』と同じ。

自宅の『食卓』が少しでも汚れていたら、誰でもキレイにする。全員が自宅と同じようには出来なくても、一人でも多く、会社の中でも、率先してキレイにする人を育成するかが課題」と締めくくった。

県西地区支部

総会を開催

県西地区支部（支部長 大野 充敬氏 日立化成(株)下館事業所長）は12月9日(月)筑西市「ダイヤモンドホール」にて県西地区支部総会を開催した。

冒頭、大野支部長からは「支部活動は『会員間の交流と連携』をこれまで以上に強めて、会員各社の経営力向上と地域経済の活性化に寄与して参りたい。また、今年度は協会をあげて会員増強運動に取り組んでおり、当支部でも5社の新入会員をお迎えすることが出来た。支部会員



大野支部長挨拶

が一社でも多くなるようご協力をお願いしたい。」と挨拶があり、ご臨席をいただいた高橋副会長からは「協会では現在、来年度からの協会運営の3ヶ年計画である『第7次中期運営要綱』を策定中である。より良い事業運営となるよう、忌憚のないご意見ご要望をお寄せいただきたい。」と挨拶があった。続いて、清水専務理事から経営者協会全体の会務報告ならびに第7次中期運営要綱の案について説明があり、その後、野上副幹事長より平成25年度支部活動状況および今後の計画（案）が発表され、原案通り承認された。その後、今年度入会いただいた会員2社が紹介され、各社からひと言ずつ挨拶があった。

続いて、記念講演会に移り、



講演の様様：(株)帝国データバンク戸羽透講師

株式会社帝国データバンク水戸支店長の戸羽透氏より「私が見た伸びる会社、潰れる会社」と題して講演いただいた。講演では、危ない会社の見分け方や、伸びる会社・潰れない会社の条件などについて、県西地区の事例や戸羽氏が実際に目で見た生の情報をご披露いただいた。

支部総会の最後には交流懇親会に移り、参加者相互の懇親を深め散会した。

取手・龍ヶ崎地区支部

藤井信吾・取手市長との懇談会を開催

取手・龍ヶ崎地区支部（支部長 小早川忠氏 キリンビール(株)取手工場長）は、11月28日(木)キリンビール(株)取手工場において、取手市長との懇談会を開催した。

本懇談会は、取手市長の行政施策を拜聴し、より良い地域づくりのために産業界の意見を提案するとともに、行政と企業の相互理解の促進を図ることを目

的に開催。

はじめに、開会挨拶で小早川支部長が「今日は、公務ご多用の中お越しいただきました藤井市長から、「取手市が取組む地域産業活性化施策とまちづくり」をテーマにお話をいただきます。取手市をどのように活性化させ発展させていくのか、また、より良いまちづくりに産業界として、どのようなことが

できるのかを伴に考えたいと思います。本日の懇談会で、地域経済の柱である企業と行政が、さらに調和のとれた体制、また、何か新しい“きっかけ”や“ヒント”などが見つけられれば、主催者として喜ばしいこととさせていただきます」と挨拶。つづいて、藤井取手市長から、平成25年度取手市の組織目標である「ウェルネスタウン未来を見

据えた取手づくり」「市民が安全で安心して暮らせるまちづくり」「産業と地域の活性化を図るまちづくり」を説明いただいた後、特に地域産業経済の活性化

を図るまちづくりについて重点的にお話をいただいた。

意見交換では、①行政と企業の定期的な意見交換の実施、②高齢化社会への対応策、③地域

自治体との連携などについて意見が寄せられた。懇談会終了後には、市長との交流会も併設し、行政と企業の相互理解を深め散会した。

鹿行地区支部

第3回役員幹事会を開催

鹿行地区支部（支部長 木村和弘氏 日鉄住金鉱化(株)代表取締役社長）は、12月5日(木)、古高山荘 岨山亭において、木村支部長、替地享二副支部長（鹿島都市開発(株)代表取締役社長）出席のもと、平成25年度第3回役員幹事会を開催。14社16名が出席した。

冒頭、木村支部長より挨拶を

いただいた後、石寄光幹事長（日鉄住金プラント(株)総務グループ長）の進行により協議が進められ、県南鹿行ブロック経営者懇談会など上期の事業報告が事務局より説明された。

また年明けに開催が予定されている“支部セミナー”について、内容・講師の選定が進められ、下記内容で開催することが

承認された。

テーマ：0円で8割をリピーターにする集客術!!～すべてのビジネスにリピート客を～

講師：リピート創出専門コンサルタント

一圓克彦氏

日時：平成26年3月7日(金)

15:00～16:50

場所：鹿島セントラルホテル

支部合同

支部合同による視察会を開催／富士重工業矢島工場、富岡製糸場を見学

例年恒例となる支部合同による視察会が11月27日(水)に開催され、富士重工業株式会社矢島工場と富岡製糸場の2ヶ所を視察した。35社53名が参加。

最初に訪れた富士重工業矢島工場は、東京ドーム12個分の広大な敷地で4,000人近い従業員が、人気の高まりを見せるスバル車を生産。

初めに技術とモノづくり、環境への取り組み、地域貢献活動など矢島工場の概要を伺った後、ビジターセンターの展示ホールに移動、スバルが初めて販売したスバル360から現在のBRZまで歴代の車を見学した。

工場見学では、プレス行程から産業用ロボットが多数導入されているボディ溶接組立工程、ボディに各種の内外装品を取り付けるトリム工程などを見学、北米での人気を反映し輸出用の車も含めた製品が驚くほどの早さで完成する様子に圧倒された。

続いて訪れた富岡製糸場は、平成26年度のユネスコ世界遺産委員会での世界遺産登録を目指しており、明治5年に官営の器



富岡製糸場の東繭倉庫を見学

械製糸場として操業を開始、民営化後も一貫して製糸を行い、昭和62年の操業中止まで、国内養蚕・製糸業の水準を牽引してきた事で知られている。

当日は民間のボランティアガイドの説明を受けながら、大震災でもダメージを受けなかった木骨煉瓦造の東繭倉庫や創業当初フランス式の操糸器300釜が設置され、現在は昭和40年代以降に設置された自動操糸機が保存されている操糸場を見学、フランスの技術が導入され日本の工業化の幕開けを支えた施設に感銘を受け帰路についた。



矢島工場の飛行機をバックに

NPO情報

NPO information

Vol.159

人の出会いと未来をつくる仕事 「明日へつなぐ船」出航

茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事 横田 能洋

○きっかけは、福島から避難している一人の声

クリスマスの日、大洗港から北海道へ向かうフェリーに14名の福島出身の子どもが乗船しました。うち12名は原発事故の影響で茨城に避難している子どもたちです。今も、福島第一原発に近い地域への立ち入りは厳しく制限されています。大人は一時帰宅できますが、子どもは入ることができません。そんな中で「このままでは子どもたちが故郷のことを忘れたまま大人になってしまう。この地域の未来について子どもたちにも考えてもらいたい、そのために少しでも故郷を見せたい。」そんな想いを原発のある大熊町から避難している方から1年前にききました。想いを形に変えるのがNPOの仕事です。そこから「明日へつなぐ船」の企画はスタートしました。

○「応えてくれる人はいる」と信じて動いたら想いは通じた

最初は、船をチャーターす

ることを考えましたが、適当な規模の船が見つかりませんでした。また海上でも原発周辺に近づくことが難しいことがわかりました。そこで、大洗と北海道を行き来するフェリーに乗り、船から故郷をながめ、3泊4日の旅の中で、子どもたちと今後の故郷との関わりを考えるという企画をつくりました。子どもが参加でき船の予約ができる時期を考え12月25日からの4日間ときました。幸い、共同募金を通じて韓国の方々の支援金をいただくことができましたが、事業の継続を考え参加費を一人1万円は負担してもらうことにしました。連絡先が分からない中で、どう子どもたちを募るかが課題でした。そこで、避難元の福島の市町村の広報誌に募集記事を掲載したり、茨城で暮らす避難者1800世帯向けに市町村経由で送っている情報紙にチラシをいれたり、最後は県教育委員会の協力もいただいて、避難している子どもが在学している学校経由でも案内しました。その結果、小学校5年から中学生までの子どもで震災当時福島にいた14名が集まったのです。私は、見送りまででしたが、こどもたちの顔を

みて、よく集まってくれたと、想い、提案してくれた方とも「ここまで来ましたね」と話しました。大洗町や船会社の方にもご支援をいただくことができ、寒い日でしたが温かい気持ちになりました。

○今も続いている避難生活

出航前に、何組かの家族の方と話して、震災までは福島沿岸部に住んでいて、今は中通りで仮設住宅に住んでいる世帯の方もいました。いろいろな場所を経て、仕事や親せきなど何かつながりがあった茨城に来られた方など、それぞれの避難生活が続いていると改めて感じました。子どもたちも、いろいろなものを背負いながら、慣れない地域、学校で、この3年間を暮らしてきています。「船に乗って北海道へ行きたい」というのが参加のきっかけだとしても、4日間の旅の中で、日ごろはバラバラに暮らしている福島子どもたちが、これまでのことや今後のことなど、いろいろな話をして、つながりが生まれるでしょう。そしてそのつながりが明日につながると信じます。NPOらしい事業が年末に形になってよかったと思いました。

新入会員紹介

株式会社RTプランニング

■代表取締役 榎本 拓也



Data 所在地／ひたちなか市勝倉2634-23 業種／WEBコンサルタント・スマホアプリケーション開発スクール運営
TEL／029-357-9809
FAX／029-357-7982 従業員／2名

Appeal point IT産業は、政府の新成長戦略の中で最も発展が予想される産業の一つとして重要強化の対象であり、特にIT分野の成長と生産性を高めるための人材確保と育成は必須となっております。激増するスマートフォンやタブレット端末の販売活動及び、最新のスマートフォンアプリケーションの開発事業、そして、多様化する情報時代に常にマッチングしたWEBコンサルタント業を通じ地域の活性化を軸に、IT産業の発展と未来に全力に取り組んでおります。

株式会社ヴィオーラ

■代表取締役 藤本 昌宏



Data 所在地／水戸市見川町2131-404 業種／貸しおしぼり業
TEL／029-241-8251 従業員／18名
FAX／029-243-7203

Appeal point ヴィオーラという会社の名前はギリシャ神話の「イオ」に由来します。また、花の名前で“すみれ”の意味もあり野生に自然に咲くすみれは踏まれても翌年にはかわいい花を咲かせます。生命力があり、皆様に愛されるように…。

当社は、昭和37年創業以来、日本の文化「おもてなしの心」の象徴であるおしぼりを提供してきました。

現在では50年以上の洗濯の技術を活かし、美容室向けのタオル、施設の衣服のクリーニングを手掛けて高い評価を受けています。お客様に「おもてなしの心」をもって提供しようと努めています。

また、社会貢献のひとつとして障害者を多数雇用することも積極的に進めています。

株式会社ジェイ・アイ・エム

■代表取締役 池田 時浩

<http://techitoh.co.jp>



Data 所在地／つくば市竹園2-13-30 業種／建設業
TEL／029-860-8031 従業員／34名
FAX／029-860-8075

Appeal point 弊社は住宅用の太陽光から産業用の太陽光までの設計・施工が行える県内でも数少ないEPC企業です。

美しい地球と安心・安全な会社をみんなで作りたいと私たちジェイ・アイ・エムは考えています。弊社は、お客様に真の価値と感動を提供するべく、自然エネルギーの本当の環境価値を多くの人に理解していただき未来のエネルギー生活を豊かにすることをめざしております。

= 詳細は、事務局までお問合せください =

セミナー名	日時・料金	テーマ・内容	講師	会場
新春経済講演会	1月28日(火) 14:00～16:00 無料	「2014年の日本経済のゆくえ」	内閣府大臣官房審議官 (経済財政分析担当) 鹿野 達史 氏	常陽藝文ホール
第2回 緊急時のマスコミ・ネット対応セミナー	1月30日(木) 13:30～17:00 経営者協会会員 3,000円 経営者協会会員外 6,000円	事件・事故発生時のマスコミ、ネット対応～緊急時に求められる記者会見の進め方～	(社)日本経営管理学会 代表理事・副会長 機器管理システム研究学会 会長 千葉商科大学/大学院教授 藤江 俊彦 氏	茨城県産業会館 大会議室
春季労使交渉・労使協議を考えるセミナー	2月5日(水) 14:00～16:00 経営者協会会員 3,000円 非会員 5,000円	2014年の春季労使交渉・労使協議に対する経営側の基本的考え方～2014年版経労委報告、労使交渉・労使協議の手引きの解説～	一般社団法人 日本経済団体連合会 労働政策本部 大橋 泰弘 氏	茨城県産業会館 1F研修室
経営研究会	2月12日(水) 15:30～17:00 1,000円	「雇用創造 1人でも多くの人に働く喜びを～当社が大切にしている人間力・個性～」	株式会社アイエスエフネット代表取締役 渡邊 幸義 氏	茨城県産業会館 研修室
水戸地区支部セミナー	3月6日(木) 14:00～17:00 1,000円	①「私が見てきた報道の裏側」 ②「初歩からわかるでんさいネット」	①株式会社茨城放送 代表取締役社長 北島 重司 氏 ②株式会社全銀電子 債権ネットワーク 関係者	水戸プラザホテル
リピーター創出セミナー	3月7日(金) 15:00～16:50 1,000円	「0円で8割をリピーターにする集客術～すべてのビジネスにリピート客を～」	リピーター創出専門 コンサルタント 一圓 克彦 氏	鹿島セントラルホテル

問合せ 一般社団法人 茨城県経営者協会
〒310-0801 水戸市桜川2丁目2番35号 茨城県産業会館11階
TEL 029-221-5301 FAX 029-224-1109
ホームページ <http://www.ikk.or.jp> Eメール info@ikk.or.jp